

ミバエ類の最近の防除情報

南西諸島及び小笠原諸島におけるミバエ類の防除事業については、本誌で紹介してきたが、今回は防除の経過と最近の防除状況をとりまとめて紹介する。

ミカンコミバエの防除

【南西諸島】

奄美・沖縄におけるミカンコミバエ根絶防除の経過は次のとおりである。

南西諸島におけるミカンコミバエ根絶防除の経過

年 月	内 容
昭和43年9月	奄美群島の喜界島で根絶を目的とした実験防除を開始
46年1月	同群島の冲永良部島、与論島で密度抑圧防除を開始
47年7月	徳之島で密度抑圧防除を開始
48年5月	奄美大島で密度抑圧防除を開始
49年5月	奄美群島全域で根絶防除を開始
52年10月	沖縄群島（沖縄本島及び周辺諸島、久米島及び南・北大東島）で根絶防除を開始
54年5月	喜界島、奄美大島、徳之島でミカンコミバエの根絶を確認
55年5月	冲永良部島、与論島でミカンコミバエの根絶を確認
57年4月	宮古・八重山群島で根絶防除を開始
57年8月	沖縄群島でミカンコミバエの根絶を確認

宮古・八重山群島：前年に引き続いて、山林・農地などについては、誘殺剤（メチルオイゲノールとジプロムの混合剤をしみ込ませたテックス板）の航空散布が、住宅地域や寄主植物の多いやぶ地などについては、誘殺剤の地上つり下げによる防除が行われている。

宮古群島では、根絶防除開始後、野生虫密度は減少したが、同群島の大小100ヶ所にも及び拝所などが防除効果に影響があったため、58年2月から拝所などに対しての地上防除が強化された結果、防除効果は著しく上がり、58年8月、宮古島での雄成虫1頭の誘殺が最後である。

このまま推移すれば59年度前半には那覇植物防疫事務所により駆除確認調査が実施できる見込みである。

八重山群島では、根絶防除開始後58年4月まで

野生虫密度は減少したが、5月以降野生虫密度は増加した。特に西表島では、7月のトラップ調査で計247頭の誘殺が認められたため、地上防除の改善と、南西部の廃村地域や南部沿岸地帯に対しては、航空防除の強化が図られている。

沖縄群島：57年8月の根絶確認以降行われている侵入警戒調査によって、58年10月沖縄本島中部の北谷町で雄1頭が誘殺された。このため、発見地周辺については、トラップの増設、寄主果実調査の綿密化及び誘殺剤の地上つり下げによる応急防除が行われた。その後、トラップ調査及び寄主果実調査では本虫は確認されていない。

【小笠原諸島】

父島列島、母島列島、智島列島において、根絶防除が行われており、これまでの経過は次表のとおりである。

小笠原諸島の根絶防除の方法は、奄美・沖縄とは異なり、誘殺剤の散布で野生虫の密度を減少させた後に、不妊虫(蛹)を放飼して根絶を図る方法がとられている。

小笠原諸島におけるミカンコミバエ根絶防除の経過

年 月	内 容
昭和50年3月	不妊化虫大量増殖施設の整備を開始（父島）
50年12月	父島、母島、智島の3列島で誘殺剤による密度抑圧防除を開始（父島、母島列島は53年3月中断）
53年5月	智島列島で不妊虫放飼を開始（週70～80万頭）
53年5月	父島、母島列島で誘殺剤による密度抑圧防除を開始
53年11月	母島列島で不妊虫放飼を開始（週100万頭）
55年6月	父島列島は密度抑圧防除を中断、防除方法を再検討
56年11月	父島列島で誘殺剤の大量散布による密度抑圧防除を再開
57年2月	父島列島で不妊虫放飼による防除を開始（週500～700万頭）

父島列島では、前年に引き続き、週700万頭の不妊虫を航空機及び地上（61地点）から放飼している。その結果、寄主果実調査で、58年4月/パイヤ（1果）から発見された3頭が最後である。

母島列島では、55年9月以降、智島列島では53年9月以降寄生果は発見されていない。

なお、侵入に備えて田島列島では週120万頭、
賀島列島では週20万頭の不妊虫放飼が行われている。

このため、59年度中には横浜植物防疫所により、
駆除確認調査が実施できる見込みである。

なお、硫黄列島(北硫黄島、硫黄島、南硫黄島)
及び南鳥島については発生の有無を確認するため、
トラップ調査と寄主果実調査が行われている。

硫黄島と南鳥島については、59年1月下旬～3
月上旬の間、トラップを設置して調査した結果、
ミカンコミバエは発見されていない。

ウリミバエの防除

奄美、沖縄におけるウリミバエ根絶防除の経過
は下表のとおりである。

沖縄県

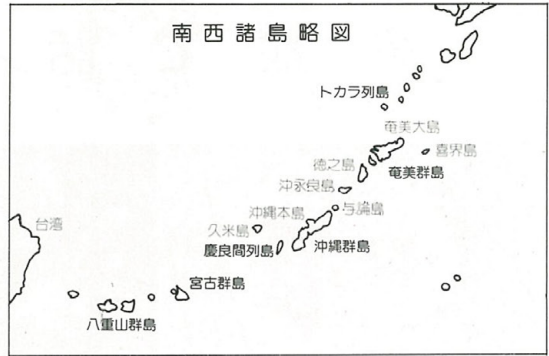
慶良間列島では、ウリミバエの根絶と久米島
(53年根絶確認)への再侵入を防止するため、52
年から週400万頭の不妊虫(成虫)の放飼が行わ
れており、防除効果は上っている。

宮古群島では、59年2月から誘殺剤散布による
密度抑圧防除が開始され、59年8月からは、週
3,000万頭の不妊虫放飼へ移行する予定である。

また、沖縄県全域からウリミバエを根絶するた
め、昭和55年度から61年度までの7カ年計画で那
覇市に不妊化虫大量増殖施設(週1億頭生産規模)
を建設中で、すでに宮古群島の根絶防除に必要と

南西諸島におけるウリミバエ根絶防除の経過

年 月	内 容
昭和47年12月	久米島で撲滅実験事業として密度抑圧防除を開始
48年	沖縄県農試八重山支場(石垣市)にウリミバエ大量増殖施設(週400万頭生産規模)を建設
〃	沖縄県農試(那覇市)に不妊化施設を建設
50年2月	久米島で不妊虫放飼を開始(週200～400万頭)
52年10月	久米島に隣接する慶良間列島で不妊虫放飼を開始
53年9月	久米島でウリミバエの根絶を確認
55年4月	沖縄県農試に不妊化虫大量増殖施設(当面3,000万頭、将来1億頭生産規模)の建設に着手
56年	鹿児島県農試大島支場(名瀬市)に不妊化虫大量増殖施設を建設(週400万頭生産規模)
56年2月	奄美群島の喜界島で密度抑圧防除を開始
56年8月	喜界島で週400万頭の不妊虫(蛹)の放飼を開始
57年	鹿児島県農試大島支場に不妊化虫大量増殖施設(週4,000万頭生産規模)建設に着手(59年度まで)
59年2月	宮古群島で誘殺剤による密度抑圧防除を開始



される週3,000万頭生産の内部(増殖)施設が完
成し、大量増殖に着手している。

沖縄県ウリミバエ防除計画(農林水産省案)

地域	年度	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66
宮古群島		(抑圧防除) ⇄ (不妊虫放飼 週3,000万頭)											
沖縄群島 (久米島を除く)		(抑圧防除) ⇄ (不妊虫放飼 週1億頭)											
八重山群島		(抑圧防除) ⇄ (不妊虫放飼 週1億頭)											
不妊化虫 大量増殖施設 (那覇市)		(施設整備) → (施設整備) (週3,000万頭) → (週1億頭)											

鹿児島県

奄美群島の喜界島において、56年8月以降週
400万頭の不妊虫(成虫)の放飼が行われている。
その結果、57年11月以降、寄生果は発見されてい
ない。また、現在は野生虫の誘殺も認められてい
ない。

奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島では、
うり類栽培地を重点に誘殺剤、散布剤による被害
軽減防除を行っている。特に奄美大島北部では、
喜界島への侵入防止のための密度抑圧防除が強化
されている。なお、奄美群島の根絶防除の計画は、
以下のとおりである。

奄美群島ウリミバエ防除計画(農林水産省案)

地域	年度	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64
喜界島		⇄ (抑圧防除) (不妊虫放飼 週400万頭)										
奄美大島		(抑圧防除) ⇄ (不妊虫放飼 週4,000万頭)										
徳之島 沖永良部島 与論島		(抑圧防除) ⇄ (不妊虫放飼 週4,000万頭)										
不妊化虫 大量増殖施設 (名瀬市)		(施設整備) → (施設整備) (週400万頭) → (週4,000万頭)										